

(3) 市川三郷町立六郷小学校（児童数124名）・六郷中学校（生徒数72名）

学力向上に向けて小中学校が連携して取り組んだこと

内容

- ・両校の小中連携教育の目的は、学力向上と中一ギャップの解消を図ることと確認した。
- ・昨年度に行った保護者アンケートによる保護者ニーズの把握から、①義務教育9年間で身に付けてほしいこと、②重点的に取り組んでほしいことを確認した。また、昨年度の小6へのアンケートから中学校進学への不安や期待などを把握し、交流活動の重要性を確認した。
- ・各種学習調査の分析と保護者の願いからの取り組むべき課題として、①社会的自立に必要な力、②考えを表現できる力（言葉・文字、発表の機会の充実）、③自他を大切にしやすい心を確認し、次の5点に取り組んだ。（①確かな学力、②豊かな心、③健康な心と体、④安心安全な教育環境、⑤地域との連携）
- ・学習規律・家庭学習・生活指導などの系統的な指導の在り方について検討した。（学びノート<小学校>と家庭学習ノート<中学校>の検討、山梨県家庭学習ファイルをもとにした家庭学習の手引きの見直し）
- ・地域学習の継続的な学び（重複のない学習計画・地域交流・人材活用）について、関連事項・地域学習各一覧表を作成した。
- ・小中連携担当の指導交流（小学校連携担当が中学校1年生数学の全ての授業に年間を通してTTとして授業をする、中学校研究<連携>担当が小学校6年生に英語の出前授業をする）
- ・学力向上と中一ギャップの現状把握のための調査（小6<2回>と中1<2回>にアンケート）を実施し、今年度の課題把握と実施結果について確認した。

成果

- ・9年間の系統的な教育課程（年間指導計画の簡略版）の作成ができた。
- ・小中の教育活動を確認し、関連事項一覧表と地域学習一覧表の作成ができた。
- ・家庭学習のノートについて、連携していく方向での検討を始めた。
- ・両校の連携担当が、話し合いを持つ回数が増え、教職員間の交流回数も増えてきた。
- ・中1ギャップの解消に向け、児童アンケートの結果から改善をし、小6の交流を増やすことができた。
- ・児童生徒の学力向上に向け、9年間の系統的な取組を始めることができた。

課題

- ・9年間の系統的な教育課程を作成したので、それを活用しての実施・検証・改善を図る。
- ・学力向上を目指して、教職員の見合う授業につながる、お互いの授業への参観交流を増やしていく。
- ・小中学校連携教育関連事項一覧表と地域学習一覧表をもとに、交流の見直しや行事の見直しをしていく。
- ・小中学校の地域学習が、系統的な学びになっているか検討し、計画を整理していく。
- ・研究活動の評価方法の検討（学校評価の在り方も含めて）をしていく。

授業改善に向けて小中学校が連携して取り組んだこと

内容

- ・小中の合同研究授業や合同研究会を実施して、授業スタイルのスタンダード化、指導法などの共通理解を行った。（授業のスタンダード化<六小スタンダードと中学校の授業スタイル>、①主体的・対話的で深い学び、②根拠を示して伝える言葉や文字での表現力）
- ・小中ペアによる見合う授業（お互いの授業参観、小中教職員の授業交流）の実施を目指すことを決め、教科・専門職ペアを作り、年間を通して交流を実施した。（今年度できたことは、教科ペア⇒生活参観週間や学校開放日の機会を利用しての相互授業参観、専門職ペア⇒具体的にどんな連携ができるかをペアで話し合い、連携計画書の作成）
- ・特定の教科「算数・数学」の年間指導計画に関連を記入した一覧表も作成した。また、小学校と中学校相互に全ての学年の教科書を配置し、年間指導計画の簡略版とともに活用できるようにした。（9年間を見通した教育課程の作成<単元や小中の関連を明記>、職員室に9年間の教科書を配置）
- ・平成30年実施の全国学力学習状況調査及び山梨県学力把握調査等の分析結果を生かした授業改善を行った。また、分析した課題を小中合同研究会で確認をした。
- ・合同での研究授業を通して、学習規律（聴き方・伝え方）について確認をした。

成果

- ・9年間の系統的な教育課程を作ったことで、児童生徒が学力向上に向けて、スムーズに学習を

進められるようになるための研究会を合同で行うことができた。

- ・合同研究授業，研究会を通して，両校の授業スタイルや進め方を確認できた。教科の学習の仕方についても，お互いに，どのようにその内容を学習したのかを理解することができた。（既習の学習について，学び方を知り，振り返らせながら授業を進めていくことができた）
- ・小中の教科ペアを作り，見合う授業につながる授業参観の実施を行うなど，教職員の交流ができた。
- ・各種調査等の分析から授業改善を行い，それを合同研究会で確認することができた。
- ・学力向上に向けて，9年間の年間指導計画（10教科）簡略版の作成や職員室へのそれぞれの教科書の配置ができた。
- ・各校の研究授業や合同研究授業の中で，授業案の中に小中相互の関連を明記できた。

課題

- ・小6から中1へのスムーズな移行に向けて，授業のスタイルやノートの取り方の共有など，改善できるものを進めていく。
- ・教科ペアが交流することで，各校の生徒児童の学習面での実態と課題を共有していく。
- ・わかる授業に向けて，9年間の年間指導計画簡略版や相互の教科書の内容を確認し，既習の学習（その時の学びや学習内容）にも触れ，学習意欲や理解につなげていく。また，中学校や上位学年で更に深く学習することも伝えていくようにしていく。

生徒指導に関して小中学校が連携して取り組んだこと

内容

- ・中1ギャップの解消を目的に，中学校教員による小学校への出前授業（3回：理科，数学，英語）と小6の中学校（中1～3）への授業見学を実施した。小6には，2月に中学校での体験入学が計画されている。
- ・毎月行う六郷小中運営研での情報交換を行った。（両校の校長・教頭の4名）
- ・家庭学習の習慣化として，家庭学習の手引きや学びノートから自主学习ノートへの連携と継続に向けて検討した。
- ・生活指導上の約束など，生活指導の系統的な指導の在り方について検討を始めた。
- ・小中学校連携教育関連事項一覧表を作成し，児童の居場所となる学級集団づくり，思いやりの心の育成，同年齢（異年齢）集団の人間関係の育成，保護者や地域との連携，学習規律，学習習慣の形成についても，小中の連携をしていくことを確認した。
- ・お互いの学校の児童生徒の様子を，生徒指導という観点から情報交換することができた。

成果

- ・小6児童への出前授業や中学校の授業見学は，中学校の学校生活や授業を知ることに加えて，中学校の教職員との交流も深まり，効果的な活動となっていた。また，実施後に行った児童の感想に，「中学校進学への不安が減り，期待が深まった」と書いている児童が多くいた。
- ・学習規律や家庭学習について，小中連携の可能性が検討できた。

課題

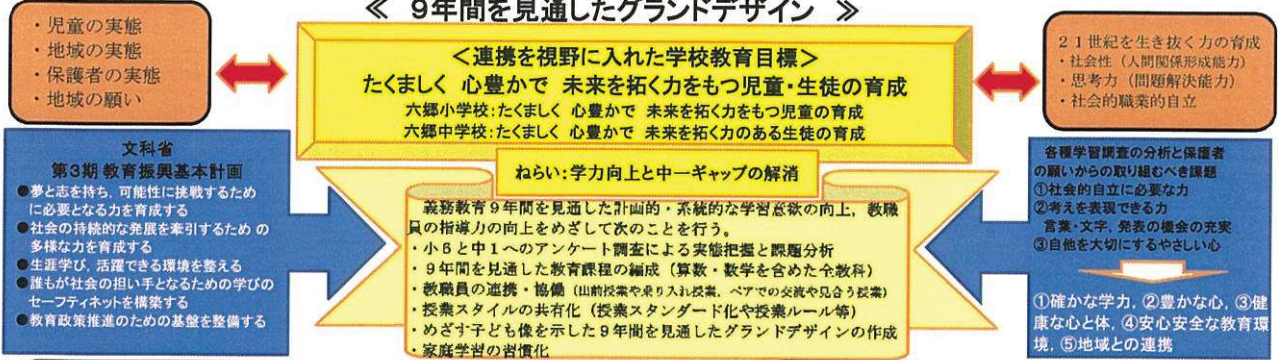
- ・各校の児童生徒の実態と課題を，教職員で共有して指導に生かしていく。
- ・小中学校連携教育関連事項一覧表から，更なる効果的な連携ができるか検討していく。
- ・児童生徒の更なる交流活動を，各行事や児童会生徒会活動，教科の学び等の中で実施できないか，効果的な連携があるか検討していく。

その他 小中学校が連携して取り組んだこと

内容

- ・小中連携の方針，最終目標の決定と小中の年間行事や研究会の日程の調整を行った。また，児童生徒の交流や教職員の交流の計画を立てた。
- ・研究推進委員会や小中合同研究会，授業研究会を開催した。
- ・小中学校の学校教育目標，目指す子ども像・学校像を検討し，連携教育の目標を決定した。
- ・9年間を見通した円滑な接続を目指す教育の推進のため，小学校の取組と中学校の取組をつなぎ，9年間継続したものとなるように，小中の重点指導項目，特色ある活動などの再検討を行い，小中連携教育「9年間を見通したグランドデザイン」を作成した。
- ・合同研究会の中に，研究組織として学習指導部会と小中連携部会を作り研究を進めた。
- ・児童や生徒，教職員の交流活動の充実を目指し，実施している交流活動の確認や検討，見直しを行った。また，教職員の交流は，合同研究会の中で行き，互いの行事への参加も行った。
- ・ふるさとキャリア教育の推進を目指し，地域人材の有効活用や地域人材への対応と合わせて，愛町心の具現化に向けた地域の自然・歴史・文化産業などを系統的に学ぶ取組の整理を行った。

平成30年度 市川三郷町立六郷小学校・六郷中学校 小中連携教育全体計画
 ≪ 9年間を見通したグランドデザイン ≫



文科省 第3期教育振興基本計画

- 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する
- 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する
- 生涯学び、活躍できる環境を整える
- 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する
- 教育政策推進のための基盤を整備する

六郷小・中の子どもの教育

ねらい: 学力向上と中一ギャップの解消

義務教育9年間を見通した計画的・系統的な学習意欲の向上、教職員の指導力の向上をめざして次のことを行う。

- ・小6と中1へのアンケート調査による実態把握と課題分析
- ・9年間を見通した教育課程の編成(算数・数学を含めた全教科)
- ・教職員の連携・協働(山梨授業や参入授業、ペアでの交流や見合う授業)
- ・授業スタイルの共有化(授業スタンダード化や授業ルール等)
- ・めざす子ども像を示した9年間を見通したグランドデザインの作成
- ・家庭学習の習慣化

新やまなしの教育振興プラン

基本理念: 未来を拓く「やまなし」人づくり

- ◆夢と希望に向かって自ら学び、考え、行動する「たくましい力」を育てる
- ◆他者を思いやり、社会の絆を深める「しなやかな心」を育む

山梨県学校教育指導重点

- 知・徳・体の調和を重視し、「生きる力」を育む適切な教育課程の編成と実施
- 世界に通じ、社会を生き抜く力の育成
- 確かな学力と自立する力の育成
- 豊かな心と自己実現を図る力の育成
- 健康で豊かな生活を営むことができる「山梨スポーツの創出」
- 一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実
- 子どもたちが安全に安心して学ぶことができる教育環境づくり

やまなしスタンダード
 ≪学びの基盤8カ条≫

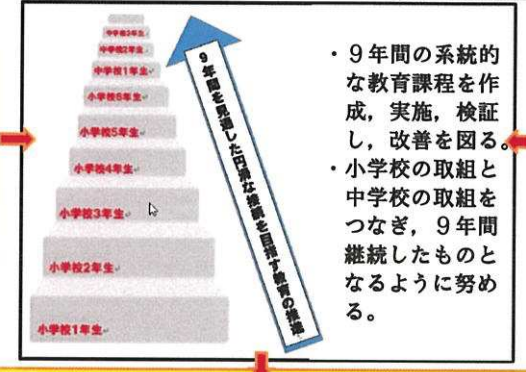
市川三郷町の学校教育

学校教育の充実

教育大綱 基本目標1「郷土への誇りと生きる力を育む町づくり」

- ◇道徳の教科化や新学習指導要領の実施に伴う、教育課程の編成と実施を進める
- ◇「生きる力」を支える「確かな学力」を育む指導と評価を進める
- ◇生徒指導の充実
- ◇体育・スポーツ及び健康・安全に関する基礎・基本となる資質・能力の育成
- ◇防災教育を通して、安全・安心な学校生活の指導を進める
- ◇英語教育を含めた国際理解教育を進める
- ◇幼児教育や小中高校との連携や、高齢者や弱者との交流を進める
- ◇学校、家庭、地域及び各関係機関との協働活動の推進
- ◇正しい日本語理解力や作文能力の向上に努める

ふるさとキャリア教育の推進



六郷中学校

(めざす生徒像)

- 確かな学力を身につけた生徒
- 思いやりの気持ちをもち、よく働く生徒
- 健康で明るく、たくましい生徒
- 自ら考え、正しく判断し、行動できる生徒

(めざす学校像)

「生徒が学びたい、保護者が通わせたい、教師が勤めたい、地域が応援したい学校」

- 明るく活気に満ちた学校
- 落ち着いた日常生活を営める学校
- 生徒、保護者、地域から信頼される学校

小中連携のための指導重点及び特色ある教育活動

- (1)小中の重点指導項目、特色ある活動などの再検討 → 小中連携教育「9年間を見通したグランドデザイン」の作成
- (2)授業スタイルのスタンダード化・小中の合同研究授業の実施 → 指導法などの共通理解
- (3)学習規律・家庭学習・生活指導などの系統的な指導の在り方の検討 → 学びノート・家庭学習ノートの検討
- (4)教科グループによる乗り入れ授業の実施(小中教職員の授業交流) → 教科・専門職への年間を通して交流実施
- (5)9年間を見通した教育課程の編成(単元や小中の系統を明記) → 教育課程の作成、職員室に9年間の教科書を配置
- (6)地域学習の継続的な学び(重複のない学習計画・地域交流・人材活用) → 関連事項・地域学習各一覧表の作成
- (7)研究活動の評価方法の検討(学校評価の在り方も含めて)
- (8)児童生徒・教職員の交流活動の充実 → 交流活動の見直し
- (9)全国学力学習状況調査及び山梨県学力把握調査等の分析結果を生かした授業改善

児童生徒をつなぐ
 教職員をつなぐ
 家庭・学校
 地域をつなぐ
 理念をつなぐ
 教育活動をつなぐ

(知) 確かな学力	(徳) 豊かな心	(体) 健康な心と体	安心安全な教育環境	地域との連携
1 授業スタイルのスタンダード化 ・主体的・対話的で深い学び ・主体的・協働的、対話型授業 2 表現力・対話力の育成 ・根拠を示して、RTP(六郷中対話力向上プロジェクト)の取組 3 学習規律の確立 ・聴き方・話し合い・伝え方など 4 家庭学習の充実 ・学びノートから自主学習ノートへの接続 ・家庭学習の手引きとノート指導 5 外国語科・英語科の充実 ・小中の系統的な指導 6 ICT活用の推進 ・情報活用能力の育成 7 特別支援体制の確立 ・個に応じた支援体制の充実	1 芸術活動の推進 ・行事を通じた交流活動 ・響きのある歌声での歌唱指導 2 ボランティア活動の推進 ・広場や通学路清掃、有価物回収 3 福祉教育・平和教育の充実 ・手話習得、福祉講話、施設訪問 4 特別の教科「道徳」の充実 ・考え議論する道徳へ 5 いじめをなくす運動の取組 ・アンケート、良好な人間関係 6 あいさつ運動の推進 ・学校・家庭・地域全体で 7 読書活動の充実 ・朝読、様々な読書推進の取組 ・読書ボランティア	1 保健教育の充実 ・年間計画による指導、集会、便り、ヘルスプロモーション意識 ・基本的生活習慣の確立 2 食教育の充実 ・年間計画による指導、集会栄養士による指導、便り 3 教育相談体制の確立 ・SC、心の教室相談員の配置 4 運動好きな子ども・体力づくり ・運動量の確保、運動の楽しさ ・部活動の充実、強歩大会 ・体力テストの活用、課題の改善 5 応急処置法の学習 ・心肺蘇生法の学習(小6・中2) ・緊急時応急処置法の学習 6 情報モラルの徹底	1 防災・防犯訓練の充実 ・小中合同引き渡し訓練 ・年間計画に沿った訓練 ・危機予測・回避能力の育成 2 安全点検と改善 ・毎月の職員による安全点検 ・専門業者による点検(遊具・プール・水質・電気等) 3 通学路の安全の確保 ・スクールガード、子ども110番の家 ・安全点検、登下校指導 ・集団下校、登校班指導	1 地域の清掃活動 ・山田川の清掃(小中合同、地域住民と一緒に) 2 授業公開日・生活参観週間 ・保護者、地域住民への公開 3 学校便りやホームページ ・地域全戸回覧 4 地域学習の充実 ・印章、町探検(校区巡り)、町内巡り、昔の町の様子、文化財、郷土食づくり、小正月団子 5 地域人材の有効活用 ・地域人材への対応

校長・教頭・連携担当

- ・小中連携の方針、最終目標
- ・小中の年間行事や研究会の日程調整(児童生徒の交流、職員との交流)
- ・小中連携担当の指導交流
- ・学力向上と中一ギャップの現状把握のための調査児童の居場所となる学級集団づくり、思いやりの心育成、同年齢(異年齢)集団の人間関係の育成、保護者や地域との連携、学習規律・学習習慣の形成

学習指導部会(研究組織)

- ・授業のスタンダード化
- ①主体的・対話的で深い学び
- ②根拠を示して伝える言葉や文字での表現力
- ・9年間の教育課程の編成(単元の関連を整理)
- ・各種調査等の分析と授業改善
- ・学習規律(聴き方・伝え方)

小中連携部会(研究組織)

- ・小中ペアを作って、乗り入れ授業の実施
- ・見合う授業の実施
- ・児童生徒の交流
- ・小学校への出前授業(3回)
- ・小学生の中学校への授業見学
- ・家庭学習の習慣化(家庭学習の手引き・学びノート自主学習ノートの継続)
- ・生活指導上の約束など

教務主任

- ・愛町の心具現化の向けた地域の自然・歴史・文化産業などを系統的に学ぶ取組の整理
- ・地域人材の有効活用、地域人材への対応
- ・ふるさとキャリア教育の推進



(4) 小菅村立小菅小学校（児童数36名）・小菅中学校（生徒数19名）

学力向上に向けて小中学校が連携して取り組んだこと
内容 ・学習の目標及び内容と問題の解き方を意識した学習活動，探究活動，言語活動に重点を置く授業の実践 ・学習の目標及び内容と問題の解き方を意識した家庭学習 ・漢字検定，数学検定，英語検定，理科検定の実施と検定を通じて意欲を高める学習指導（公費による実施，保護者も参加） ・NRT（標準学力検査）の実施による，児童生徒の実態把握と個に応じた学習活動の推進
成果 ・9年間を見通した小菅の子供たちの育成を目指し，以下の①～④に取り組むことができた ① 各種調査による「実態・課題把握」 ② 課題・実態を意識した学力向上に向けた「授業」づくり ③ 家庭の協力も得る中での「家庭学習」の習慣化 ④ 保護者も巻き込み行政からのバックアップを受けた「各種検定試験」の実施
課題 ・小学校の英語科の授業に，中学校の英語担当がどう関わることができるか （連携・継続・発展を目指す）
授業改善に向けて小中学校が連携して取り組んだこと
内容 ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり ・出前授業，小中相互の授業参観の実施（オープンスクールなど） ・ICTを活用した学習活動
成果 ・様々な特性を持つ児童生徒一人一人を多面的に把握し，つまずきや課題を踏まえた上で，授業を通じて付けたい力を明確にし，実践できた ・小中の教育課程の相互理解が図られた
課題 ・教員の異動が激しい地域，継続性の困難さ（つなげるためにどうあるべきか） ・小学校学校高学年での専科授業の模索
生徒指導に関して小中学校が連携して取り組んだこと
内容 ・児童生徒の個性やよさを認め，伸ばす指導並びに基本的自尊感情と社会的自尊感情を踏まえた指導 ・小中合同職員会議，小中合同PTA役員会並びに教育懇談会や学校保健委員会（保育所も参加）などの開催 ・行政と連携したケース会議の実施

成果

- ・児童，生徒への理解が深まり，すばやい対応が可能となる
- ・保護者，地域，諸機関との対応が迅速になされ，相互理解が図られた上での児童生徒への指導ができた

課題

- ・特になし

その他 小中学校が連携して取り組んだこと

※小菅村小中学校連携教育推進委員会の開催（10年目）

- ・小中合同体育祭
- ・中学校陸上部による小学生へのコーチ
- ・中学生による小学生への読み聞かせ
- ・小中合同給食
- ・地域の行事への参加（多摩源流祭りへの参加）
- ・地域人材や教材の活用
- ・栄養教諭による連携（食事することの意義や栄養に関する事柄，マナーを意識した給食指導）
- ・ALTによる連携（小中へ）
- ・スクールカウンセラーによる連携（つなぎ）
- ・ホームページによる情報発信
- ・プールの小中による共同運営
- ・夏の台風，冬の積雪時の授業時間の変更

小菅村小中連携グランドデザイン

小中の目指す子ども像

自分の考えを持ち、自立できる子ども



小菅小学校教育目標

ふるさと小菅村を愛し、自主・自立の心に満ちた、未来に夢を育む児童の育成

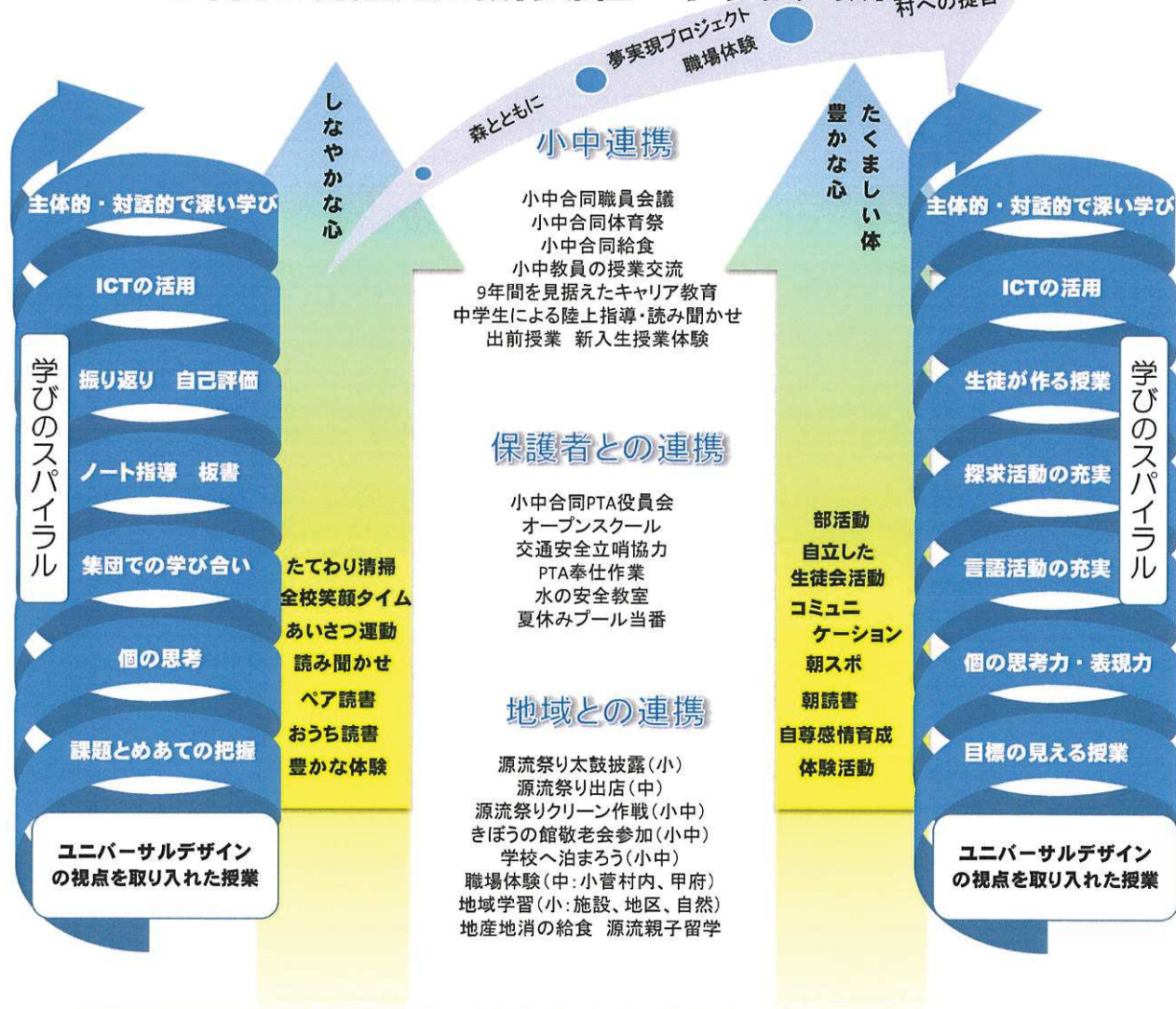


小菅中学校教育目標

心身共に健康で、人間性の豊かな、創造力と実践力のある生徒の育成

9年間を見据えた教育課程・キャリア教育

村への提言



特色ある教育活動

源流体験 大菩薩御光太鼓 臨海学校
スケート授業 東京学芸大学との交流 放課後遊びの充実
緑の少年隊 学習発表会 夢実現プロジェクト 森と共に
春・秋の遠足(地域の山登り)

オーストラリア修学旅行 PFJとの交流
甲府宿泊学習(村外職場体験) 村内職場体験 村への提言
マコモタケ収穫集会 ソーランの取組 競歩大会 スキー教室
主体的・対話的で深い学びの授業 ICT活用 少年消防隊

地域に開かれた学校

地域に学ぶ学校

地域を拓く学校

コミュニティスクールとの関連

学校運営協議会

- ・小中学校評議員
- ・教職員OB
- ・小菅人をはぐくむ会会長

CS
ディレクター

地域コミュニティ委員会

- ・小菅人をはぐくむ会
- ・老人クラブ
- ・きぼうの館
- ・源流大学
- ・NPO多摩源流こすげ
- ・百姓の会
- ・放課後子ども教室
- ・すげっこクラブ

【小菅地区キャリア教育の系統性】

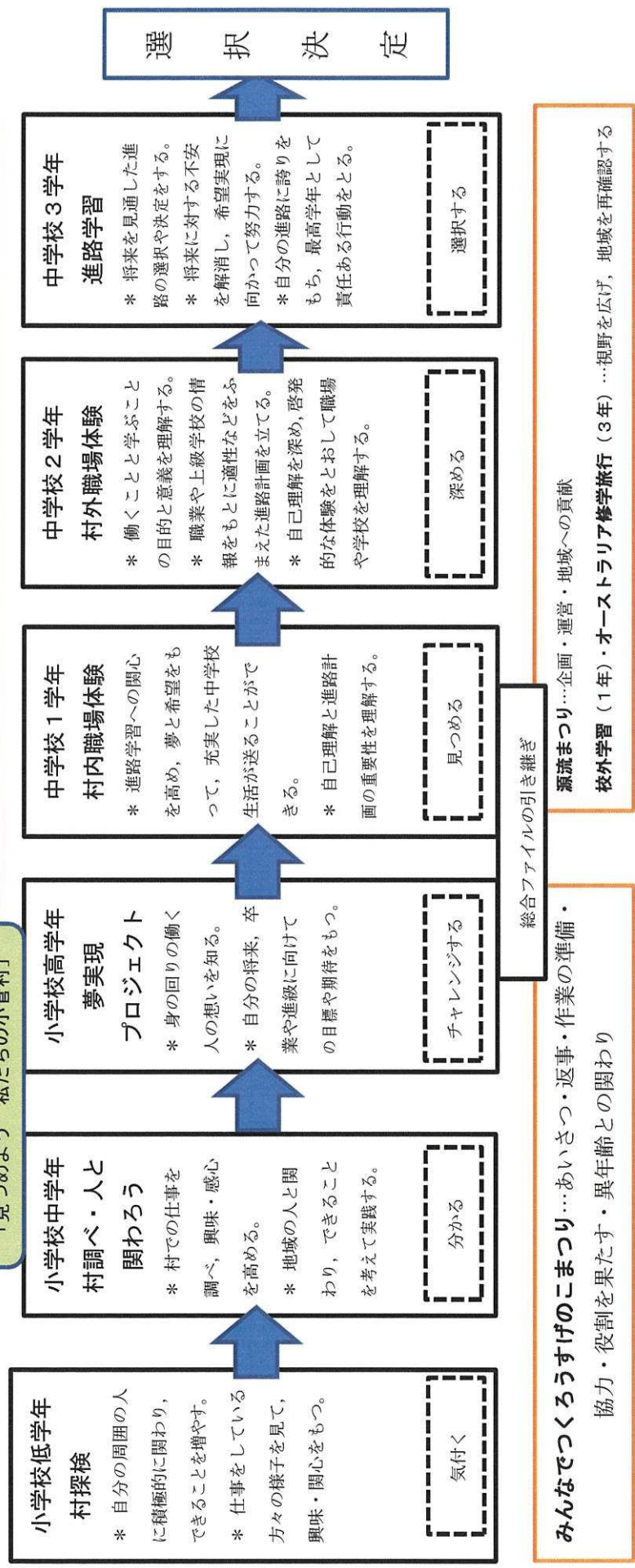
進路決定までの系統性（選択や決定できる子どもを育成するために）

・内容の詳細については、各学年の指導計画や小中連携表を参照。

地域とのつながり，人との関わり

総合的な学習の時間テーマ
「見つめよう 私たちの小菅村」

さまざまな世界を知る，体験する



＊「目指す子ども像」とともに、現在の実践がどのようなつながりに「つながっているのか共通理解を図ること」で、児童生徒のキャリア発達につながるのではない。また、その上で各校、各学年の指導計画を見直すことで見えてくるものがあるのではないか。この表を核としながら、この他の活動がどのような関連するのか具体的なイメージをつかんだ上で、行事等の取組を行うことができたらよい。

(5) 道志村立道志小学校（児童数63名）・道志中学校（生徒数35名）

学力向上に向けて小中学校が連携して取り組んだこと

内容

- ① 全国学力・学習状況調査の結果より、小中学校とも、算数・数学に課題があることから、算数・数学の学力向上について小中それぞれが課題意識を持って取り組んでいる。小学校は、校内研究のテーマを算数に絞り、中学校は、数学の授業全てを2人体制（県費教員と村費教員）で行い、きめ細かな指導の充実を図っている。
- ② 9年間の系統性を意識した「家庭学習の手引き」により、家庭学習習慣の確立と学力の定着に取り組んでいる。小学校が平成28年度に作成した「家庭学習の手引き」をもとに、系統性や発達段階を考慮した中学校版を平成29年度に作成した。

成果

- ① 目に見える形での学力の向上はこれからを持たなければならないが、小中の職員相互が算数・数学の学力向上を共通課題として、日々の授業に取り組んでいく土壌づくりができた。
- ② 小中が同じ考えのもと、発達段階に合った家庭学習の取組を行うことで、家庭学習の習慣づくりの素地を作ることができた。

課題

- ① 今後は、小中で全国学力・学習状況調査の詳細な分析を行い、定着が不十分な分野や領域を絞り込み、そこに重点を置いた指導を小中が連携しながら行っていく必要がある。
- ② 全国学力・学習状況調査の質問紙調査からは、家庭学習の習慣の確立がまだ不十分であるという結果が出ているので、手引きの活用の現状を把握した上で、その徹底や改善に取り組んでいく必要がある。

授業改善に向けて小中学校が連携して取り組んだこと

内容

- ① 小中とも、児童生徒一人一人が興味・関心を持って意欲的に参加する授業をつくってほしいという趣旨のもと、「魅力ある授業づくりをめざして～子どもたちに確かな学力をつけるために～」と題して、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに関する小中合同の研修会を実施した。
- ② 小中とも、算数・数学に学力の課題があるため、小中の職員が一同に会しての合同授業研究会（中1・数学）を実施した。

成果

- ① 教職員一人一人が改めて、日々の自分自身の授業、子供との関わりの在り方等について振り返るとともに、一人一人の児童生徒を大切にしたい、適切な授業支援について学ぶことができ、資質向上を図ることができた。また、何よりも、小中の教員が一同に会して話を聞くことで、どういう視点で授業をつくっていくか、子供に関わっていくかについての共通の土台ができたことが大きい。
- ② 小中の教員がともに意見を交わし合う中で、授業づくりや授業における児童生徒の支援について、考え方を広げたり深めたりすることができた。また、授業づくりについて何を大切にしていけるかの共通理解が図れた。

課題

- ① 今後も、合同の研修会や授業研究会を継続して積み重ねることで、小中9年間の共通した授

業づくりの視点、各学年段階に合った授業づくりのポイント等、9年間を通した「道志小中の授業づくりに関するスタンダード」の作成を検討していく。(②についても同じ)

生徒指導に関して小中学校が連携して取り組んだこと

内容

- ① 中学校への円滑な接続、中1ギャップの軽減・解消を図るため、小6を対象に様々な取組を行っている。中学校の教員による出前授業(英語、数学、体育)や小6児童による中学校の授業見学、「小中連携支援シート」を活用した小6児童一人一人の詳細な情報の引き継ぎ、中学校教員による小6児童の授業参観を行っている。
- ② 特別支援学級在籍児童の中学校生活への適切な支援を目的に、小学校の管理職及び特別支援学級担任による中1クラスの授業参観(5教科)を実施している。中学校の特別支援教育コーディネーターと管理職が特別支援在籍児童の授業参観を実施し、状況の把握を行っている。

成果

- ① 児童にとっては中学校入学前に中学校の生活や先生の様子について体験を通して知ることができ、中学校の教員にとっては小6児童の様子やそれぞれの課題について把握することができる。そのことで、児童も教師も中学校への適切な対応ができています。
- ② 事前に中学校生活の実際を小学校担当が見たり、対象児童の様子を中学校担当が見たりすることで、中学校入学時に想定されるつまづきを回避し、特性に応じた支援を行うことができ、スムーズな中学校生活への移行が図れている。

課題

- ① 実施後の反省を行い、取組自体が目的化形骸化しないように注意し、内容をさらに充実させていきたい。(②も同じ)
- ・ 今後は、小中で生活面の課題や目指すべき子供像を共有し、その上で、小中9年間を通した具体的な取組を検討したい。

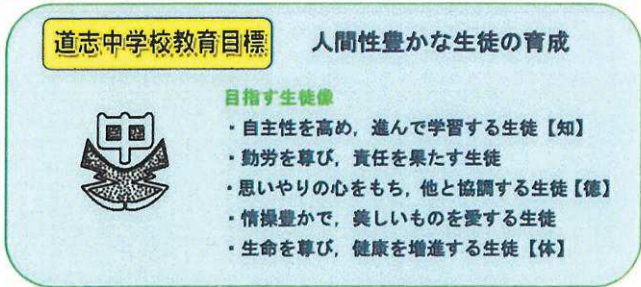
その他 小中学校が連携して取り組んだこと

- 「人をつなぐこと」による豊かな人間性と社会性の育成
小中対面式(4月)、七里っ子まつりへの中学生参加(6月)、小中合同マラソン・強歩大会(10月)、交流給食(11月)、小中合同音楽会(12月)
- 「学びをつなぐこと」による学力の向上
体育出前授業(10月)、英語出前授業、数学出前授業(2月)、合同音楽授業(3月) ※全て小6対象
- 「学校をつなぐこと」による学校生活への適応
小中生徒指導部会、特別支援ケース会議、小中相互授業参観 ※年間を通じて適宜
- 「教職員をつなぐこと」による資質向上
小中合同校内研究会(12月、中1数学)、小中合同研修会(8月、UD研修)、合同懇親会(8月)
- 「地域をつなぐ」ことによる地域の教育力活性化
東富士七里太鼓(9月、10月:運動会、学園祭、ふれあいサロン、村体育祭り)、横浜市訪問(5月:中学校、10月:小学校)
小学校:間伐体験、フィッシング体験
中学校:職業インタビュー、菊づくり、村への提言、郷土芸能「おきゅうだい」、郷土食づくり、商工会花壇手入れ

平成31年度 道志村立道志小中学校グランドデザイン (案)

＜道志村教育大綱＞	基本理念 「ひとが輝くどうし 互いに育てよう生き抜く力」
基本方針1	社会で生き抜く力を育む学校教育の推進 (1) 小中連携教育の推進 (2) 特色ある学校づくり (3) 快適な学習環境の提供
基本方針2	生涯健康で学びのある環境づくり (1) 生涯学習の環境づくり (2) スポーツの振興
基本方針3	豊かな人生を送るための歴史文化の振興 (1) 伝統文化の維持・継承 (2) 文化活動の振興 (3) 文化遺産の記録・保存

小中学校の目指す子供像 (道志村が目指す小中連携教育)
 1. 社会で生き抜く力を、主体的に追求する子供 2. 自己実現に向けて、学びつづける子供 3. ふるさとを愛し、将来のよりよい人生を考える子供



重点(1)「人をつなぐ」
 ○温かな人間性の涵養と小中連携教育の推進
 ＜具体的な方策＞
 ①道徳の授業で、考え議論することをとおして、自立した人間として、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養います。
 ②清掃、挨拶、思いやりの心を大切にし、人権感覚を養います。
 ③児童会活動、生徒会活動やマラソン強歩大会、音楽集会、交流給食、避難訓練等をおして、異学年交流を大切に、温かな人間性を養います。
 ④特別支援教育を充実させ、誰もが安心して生活できる集団づくりを推進します。
 ⑤小中連携教育を推進していき、小・中学校が、互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指します。
 ⑥授業や集会、担学活等で発表場面を意図的に設け、自分の考えたことや意見をきちんと伝えられる力の育成に努めます。

重点(2)「学びをつなぐ」
 ○学びの意欲が高まる授業づくりと学びに向かう力の育成・体力の向上
 ＜具体的な方策＞
 ①小中で連携し、9年間を見通した学習過程の在り方を探ります。
 ②授業スタンダード・授業規律・家庭学習・基本的な生活習慣などについて一貫した指導を行い、基礎学力の定着を図ります。
 ③日常的に問いや課題をもち、主体的な学習意欲・態度を養い、対話的で深い学びを実現します。
 ④体育の授業や業間の体力づくり、部活動等をおして、基礎体力の向上を目指します。
 ⑤朝読書・朝学習をおして、落ち着いた気持ちで1日をスタートできるように、集中力の向上、学力向上の一助にします。
 ⑥UDの視点での授業改善、コミュニケーション力の育成等を進め、一人一人を大切に教育を推進します。

重点(3)「地域をつなぐ」
 ○地域と共に歩む学校づくり
 ＜具体的な方策＞
 ①地域を学び、地域で学び、地域と共に学習する「ふるさと学習」を教育課程に位置づけ、系統的に学習を進めます。
 ア 地域の方が、授業に参加する機会を設定し、地域の方との交流をおして、地域について学びながら、地域を大切に作る心を育成します。
 イ 学年ごとに身に付けたい力を明確にして、学年の活動(東富士七里太鼓、体験活動等)を大切にします。
 ウ 横浜市との交流をおして、ふるさとについて広く見つめる機会を設け、ふるさとを愛する心を育成します。
 ②学校・家庭・地域が相互に連携・協力しながら、地域とのつながりを大切にする児童・生徒を育成します。
 ア 地域の行事への参加を促進します。
 イ 村への提言、村のPR動画をつくるなどの活動をおして、地域への関心を高めます。

＜校長の願い＞
 ① 学力の向上、アクティブラーナーの育成
 →学習内容の確実な定着と主体的に課題の発見・解決をしようとする児童・生徒の育成
 ② 相手意識をもった言動 →思いやりの心をもった言動
 ③ 自分の意見や考えをもち、それを相手に伝えることができる力
 →コミュニケーション力、言葉の力の育成
 ④ ふるさと道志への愛着
 →地域に関心をもち、地域のために自分を役に立てようとする態度の育成

＜本校児童・生徒のよさと伸ばしたい点＞
 ① 地域の行事に積極的に参加し、大人とコミュニケーションをとる児童・生徒が多い。
 ② まじめで素直であり、物事に前向きに取り組む。
 ③ 明るく元気に挨拶ができるようになってきた。
 ④ 友達や先生の話最後まで聞くことができる。
 ⑤ 将来の夢や目標をもてない児童生徒がいる。
 ⑥ 自分の考えを説明することに苦手意識がある。

開かれた学校づくりの推進
 ○情報発信と学校評価を生かしたPDCAサイクルの確立
 ・学校評価(保護者・教職員・児童・学校評議員・学校関係者評価委員)を生かした学校経営
 ・地域と連携した活動の推進
 ・積極的な情報提供(学校・学年日より、学校開放日)
 ○保小中連携の推進、小中連携教育の推進(H29年度より小中連携研究指定校)
 ・連続性のある学び・育ちを意識した保小中連携、小中連携教育

家庭教育の充実
 ○基本的な生活習慣の確立
 ・朝食摂取率100%
 ・家庭学習の習慣化
 ・子供との会話を大切にする習慣
 ・相談会の充実
 ・就学前教育の充実(入学説明会等)

平成31年度 道志小中学校「総合的な学習の時間」教育課程系統化資料

基本的な考え方 総合的な学習の時間における「ふるさと学習」を対象として
小中学校の学習内容の系統化を図る。

〈道志村教育大綱〉

基本理念 「ひとが輝くどうし 互いに育てよう生き抜く力」

基本方針 3 豊かな人生を送るための歴史文化の振興

(1) 伝統文化の維持・継承

(2) 文化活動の振興

(3) 文化遺産の記録・保存

道志村が目指す小中連携教育（小中学校が目指す子供像）

3, ふるさとを愛し、将来のよりよい人生を考える子供

目標 郷土愛の育成

指導重点 ○ふるさとを愛する心の育成
○地域と共に歩む学校づくり

【具体的な方策】

- ① 地域を学び、地域で学び、地域と共に学習する育成
ア：地域を学ばせ、地域を学ぶ心をつくる
イ：学年ごとと地域の交流等を通して、地域を学ぶ心をつくる
ウ：横浜市と地域の交流等を通して、地域を学ぶ心をつくる
- ② 学校・家庭・地域が相互に連携・協力しながら、地域との
つながりが大切にする。互に児童・生徒の育成の促進
ア：地域との関わり・地域のPR
イ：村への提言・村のPR
地域への関心を高める

↓①イ（学年ごとの内容の明確化）

	地域を学ぶ	伝統継承	横浜交流等	地域と関わる
中3	村への提言 →①ア（11月） ※地域のよさを知る （地域人材の協力）	東富士七里太鼓 →②イ（6～10月） ※伝統技術継承 （保存会の協力）		村への提言 →②イ（11月） ※地域への働きかけ （村当局の協力） 菊作り →②ア（6～10月） ※在住者との関わり （地域人材の協力）
中2		東富士七里太鼓 →②イ（6～9月） ※伝統技術継承 （保存会の協力）	ふるさと学習in横浜 →①ウ（4～6月） ※交流都市を知る （横浜市施設の活用）	チャレンジウィークin道志 →①ア・②ア（9～12月） ※職業体験 （地域企業等の協力）
中1	まるごと道志体験 →①ア（4～6月） ※自然体験 （地域施設の活用） 職業インタビュー・職業講話 →①ア（9～12月） ※地域の職業事情を知る （地域人材の協力） 道志ワークショップ →①ア②ア（1～3月） ※伝統芸能や郷土食を知る （地域人材の協力）	東富士七里太鼓 →②イ（6～9月） ※伝統技術継承 （保存会の協力） 道志ワークショップ →①ア②ア（1～3月） ※伝統芸能や郷土食の体験 （地域人材の協力）		職業インタビュー・職業講話 →②ア（9～12月） ※在住者との関わり （地域人材の協力） 道志ワークショップ →①ア②ア（1～3月） ※伝統芸能や郷土食の体験 （地域人材の協力）
6年	ふるさと学習④ →①ウ（4～6月） ※道志のよさの確認	道志村の伝統を学ぶ② →②イ（6～9月） ※太鼓技術継承 （保存会の協力）	ふるさと学習④ →①ウ（4～6月） ※鎌倉・東京を知る	野菜を育てよう④ →②ア（4～10月） ※在住者との関わり （地域人材の協力）
5年	ふるさと学習③ →①ア・②イ（4～6月） ※道志のことを知り よさを伝える （地域人材の協力）	道志村の伝統を学ぶ① →②イ（3月） ※太鼓の歴史を学ぶ （保存会の協力）	横浜について知ろう② →①ウ（4～12月） ※横浜を知る （横浜施設 交流校との協力）	野菜を育てよう③ →②ア（4～10月） ※在住者との関わり （地域人材の協力）
4年	ふるさと学習② →①ア（4～7月） ※道志の歴史・川を知る （地域人材の協力）		横浜について知ろう① →①ウ（3月） ※横浜を知る	野菜を育てよう② →②ア（4～10月） ※在住者との関わり （地域人材の協力）
3年	ふるさと学習① →①ア（4～7月） ※道志の昔話を知る （地域人材の協力）			野菜を育てよう① →②ア（4～10月） ※在住者との関わり （地域人材の協力）